

令和元年度  
市長所信表明

令和元年相模原市議会定例会  
6月定例会議



私たちは今、平成から令和への改元に立ち会うとともに、新たな時代の幕開けを清廉の思いを持って迎えております。

令和元年相模原市議会 6 月定例会議の開催に当たりまして、これからの市政運営に当たる私の基本的な考え方を申し上げる機会を得られましたことは、誠に光栄であるとともに、身の引き締まる思いであります。

栄えある相模原市議会において、より良い市政をつくるための議論がしっかりと行えるよう誠心誠意努めてまいりますので、議員の皆さまには格別のご指導、ご鞭撻を賜りたいと存じます。

相模原市は戦後生まれの市でありながら、目覚ましい発展を遂げた他に例を見ない都市であります。平成 15 年に中核市へ移行し、平成 18 年、19 年の 4 町との合併により清流を育む広大な森林などの恵まれた自然環境を有する都市となりました。平成 22 年には指定都市となり、県から多くの事務・権限が移譲されたことにより、福祉、教育など市民の皆さまの生活に密着する様々な分野においてサービスの向上が図られ、近年では社会生活に困難を有する子どもや若者に対する支援のほか、子育てに関する施策の充実が図られてきております。また、相模総合補給廠の一部返還や圏央道相模原愛川インターチェンジ、相模原インターチェンジの開通、さらに今後は、リニア中央新幹線の駅が設置されるとともに、2020 年東京オリンピック競技大会における自転車ロードレース競技が本市内で開催されるなど、将来の可能性に満ちあふれています。

これらは、市民の皆さま、市内の団体及び企業、市議会をはじめとする皆さまのたゆまぬ努力の賜物であり、また、これまで 3 期 12 年の長きに渡り市政をリードし、指定都市としての礎を築かれた加山前市長の功績であると考えており、改めて、これまで市の発展に尽くされた方々に心から敬意を表するとともに、深く感謝を申し上げたいと存じます。

今後は、これまでの取組を踏まえつつ、本市の大きなポテンシャルを

生かし、市民満足度の向上につながる市政運営に努めてまいりたいと考えております。

ここで、市政運営に当たる私の基本的な考え方について、3点申し上げます。

1点目は「市民に開かれた市政」についてでございます。

市政運営を行うに当たり、何より大切にしなければならないことは、市民の皆さまに市政を身近に感じてもらうこと、そして、共に市政をつくっていくことであると考えております。議場におられる議員の皆さまはご存知のことと承知しておりますが、まちを歩き、様々な市民の皆さまからいただく声から、市政運営の重要な視点に気づかされることが多くございます。だからこそ、私はまず、市長室の扉をオープンにするともに、引き続き市民の皆さま一人ひとりと直接向き合い、「対話」を重ねてまいりたいと考えております。

2点目は「持続可能なまちづくり」についてでございます。

今後、市政運営を進めるに当たっては「持続可能」という考え方がますます重要となります。我が国は平成20年をピークに少子化による人口減少が始まっており、相模原市も本年をピークに人口が減少する見通しとなっております。人口減少社会においては、生産年齢人口の減少に伴い、経済・産業の縮小、空き家や空き店舗の増加、地域コミュニティの衰退など、様々な課題に直面することとなります。そのような状況においても、市民の皆さまが安全に安心して暮らすことができる持続可能な社会を実現することが私に課せられた使命であり、将来の市民の皆さまの幸せにつながるものと確信しております。

先ほど申し上げたとおり、本市は自然と都市が共存し、これからの可能性に満ちあふれています。それらを生かしていくことは、持続可能な

まちづくり、さらには 2015 年 9 月の国連サミットで採択された、2030 年までの国際目標である「SDGs」の達成にもつながるものでございます。本市、市民の皆さま、市内企業の皆さまは、言うまでもなく国際社会の一員です。みんなで一丸となって、積極的に貢献し、日本一の SDGs 都市を目指してまいりたいと思っております。そのためには、私自身が先頭に立ち、取組を進めてまいります。

3 点目は「市民が誇れるまちづくり」についてでございます。

私は 0 才の時、母と 2 人で相模原にやってきてから 49 年間、地元で小中高と過ごし、サラリーマンとして働き、政治の世界に飛び込んで議員となり、この間ずっとこのまちの皆さまにお支えいただき、暮らしてまいりました。

私は相模原が大好きですし、このまちで育ち、暮らしてきたことに誇りを持っております。しかし、残念ながら、本市においては、シビックプライドが全国の中でも低いという民間の調査結果が出ております。この現状を変えるためには、本市の魅力をしっかりと発信していかねばなりません。もちろん、私自身がトップセールスで市内外に発信してまいります。加えて、市民の皆さまにもシティセールスをしていただきたいと思っております。そのためには、まず、市民の皆さまにこそ本市の良さを知っていただき、変えなければいけないところは変えていく、こうした取組を重ねていくことが、「私は相模原市に住んでいる」と誇れるまちづくりにつながるものと思っております。

こうした考えのもと、私がこれまで市民の皆さまからいただいた声を踏まえた、政策の一端と取組の方向性について述べさせていただきます。

はじめに、行政サービスの充実についてでございます。

市民の皆さまにとって、より身近な頼れる市役所になることが重要であると考えております。個人や地域が抱える課題等について、市民の皆さまからすると、どこの部署に相談すれば良いのか分かりにくい場合や、手続が複数の部署にまたがり、煩雑になるような場合があるのではないかと思います。そのため、気軽に訪れ、速やかに課題等の解決につながるよう、ワンストップサービスの充実に向けた検討を進めるとともに、気軽に相談できるよう、SNSの効果的な活用を進めてまいります。

また、市民の皆さまや団体、企業、大学、NP など多様な主体との連携を深め、多様化している様々な課題の解決に向けて取り組むとともに、地方分権を推進する観点から、地域の特色や実情に合わせたまちづくりをより一層進めるために、都市内分権の在り方についても検討を進めてまいります。

次に、子育て、教育についてでございます。

生まれ育った環境によって左右されることなく、全ての子どもたちが夢と希望を持って成長していける社会の実現を目指した取組を充実させることが重要です。

多くの子育て世代に選ばれる、日本一子育てしやすいまちを目指して、妊娠期から子育て期にわたる切れ目ない支援の充実、保育所待機児童の解消に向けた取組、放課後児童クラブの拡充のほか、社会的養護自立支援事業をはじめとする困難を抱える子ども・若者の支援や、いじめ・児童虐待防止対策の更なる充実などに取り組んでまいります。

また、子どもたちが笑顔で健やかに育つためには、学びの場である学校の環境を整えることが重要です。老朽化した小中学校の改修やエアコンの設置に加え、学校給食の地産地消を進めるとともに、子どもたちに喜んで食べてもらえる給食を提供するための手法についても早急に検討を進めてまいります。

さらに、学校における授業の理解度を深め、基礎学力の定着を一層図ることができるよう、教育委員会とともに、取組を進めてまいりたいと考えております。

加えて、障がい等の有無にかかわらず、全ての子どもが共に学ぶインクルーシブ教育を推進するとともに、様々な事情により、義務教育段階相当の教育を受けることができなかつた人などに対する「学び直し」の機会を提供する場として、夜間中学の設置に向けた検討を進めてまいります。

次に、シニア世代が輝き、いつまでも健康で安心して暮らせるまちづくりについてです。

人生 100 年時代と言われる今日、シニア世代が輝き続けるためには、いかに健康寿命を延ばすかに焦点を当てる必要があります。そのため、健康づくりに関する普及啓発をより一層進め、病気の予防や早期発見・早期治療を相談できるかかりつけ医等の定着や検診受診率の向上を図り、シニア世代がいつまでも笑顔でいきいきと暮らすことのできる社会の実現を目指してまいります。

また、シニア世代の行動をより楽しく、自由にし、まちの中でいきいきと活動していただくことは、まちの賑わいを維持することにもつながります。そのため、地域の実情に応じたバスの利用の支援について、検討を進めてまいります。バス路線のない地域につきましては、コミュニティバスや乗合タクシーなどにより移動手段の確保を図ってまいります。

さらに、シニア世代の豊富な知識と経験は地域の財産であることから、その経験や知識を地域活動に生かしながら、次の世代に引き継いでいくことは地域にとって大変有用であるとともに、シニア世代の生きがいにもつながるものと考えております。そのため、それぞれの得意分野を生

かすことのできるシニア人財バンクの創設のほか、空き家や商店街の空き店舗を活用した活動の拠点となる場の創出に向けた検討を進めてまいります。

次に産業と観光の振興についてでございます。

本市は昼夜間人口比率が低く、このことは市外で働く人の多さを示していることから、トップセールスによる企業誘致を積極的に行うことで、地元の雇用を創出してまいります。このように職住近接を実現することにより通勤時間を短縮し、ワーク・ライフ・バランスの推進を図るとともに、地域経済の持続的な発展にもつなげてまいりたいと考えております。

また、近年、ICTの進展に伴い、職場以外の場所で働くテレワークが注目されており、郊外にサテライトオフィスを設置する企業や、シェアオフィスを活用する企業が増えていることから、本市の強みである豊かな自然を生かすなど、新たな価値や働き方を提供できるテレワーク拠点の整備支援にも取り組んでまいります。

さらに、本市には、ロボット分野などにおいて高度な技術を持つ中小企業が集積するとともに、JAXA宇宙科学研究所相模原キャンパスが所在しております。さがみロボット産業特区であることの強みを生かすとともに、今後のロボット産業、宇宙産業の市場規模拡大の見込みも踏まえ、こうした産業等の支援や集積に取り組んでまいります。

また、海外販路拡大の支援など、地元中小企業の支援や、若者・女性の起業支援に努めるとともに、農業の6次産業化や耕作放棄地の再生利用、有害鳥獣被害の対策、地産地消の推進などによる都市農業の振興など、全ての働く人たちを支援してまいります。

観光振興につきましては、多くの観光客が訪れる相模湖、津久井湖、宮ヶ瀬湖などの5つの湖や広大な森林が育む清流、市役所さくら通りを



はじめ各地で咲き誇る桜、困難なミッションにチャレンジを続ける「はやぶさ2」の運用を行うJAXA宇宙科学研究所相模原キャンパス、伝統ある相模の大凧まつりをはじめとした地域の方々が作る様々な観光行事など、魅力あふれる多様な観光資源を広く内外に情報発信し、来街者の更なる増加に結びつけてまいります。

また、本市にはリニア中央新幹線の駅や車両基地の設置が予定されておりますことから、降りたくなる駅とするための施策に取り組むとともに、車両基地の観光資源化や回送線の旅客線化について、国や県、JR東海に働きかけてまいります。

さらに、民間の知恵を生かすとともに、近隣の都市との連携を強化し、地域の活性化につながるインバウンドの誘致や新たな観光プランの策定、そしてこれらを力強く推進するための体制づくりなどに取り組んでまいります。

次に、災害対策についてでございます。

首都直下地震や南海トラフ地震が30年以内に発生する確率は70%を超えと言われており、また、全国各地において相次ぐ集中豪雨などにより、甚大な被害が発生しております。津久井地域を中心に多くの土砂災害警戒区域を有する本市にとっても、災害に強いまちづくりは喫緊の課題となっております。

本市においては、都市部と津久井地域の中山間地域で想定される災害が異なります。そのため、一律の防災訓練ではなく、地区ごとに起こりうる災害を想定し、様々な主体が連携して実施する防災訓練を支援するとともに、分散型備蓄の充実を図るなど、地域防災力の向上を推進してまいります。

また、通学路沿いのブロック塀対策や、災害時の支援物資の輸送に欠かせない緊急輸送道路の安全対策についても推進してまいります。

さらに、学校等公共施設の改修等につきましては、災害時に避難所となることを想定し、トイレの洋式化を進めるとともに、支援を必要とする方の避難やペットとの同行避難を考慮するなど、避難所に関する様々な課題を念頭に置き、取組を進めてまいります。

次に、環境についてでございます。

本市にあふれる豊かな自然は貴重な財産であると考えております。この財産を次世代に引き継いでいくために、生物多様性を育む豊かな森林や、津久井地域を中心とした水源の保全に努めてまいります。また、省エネや再生可能エネルギーの推進を図るなど、地球温暖化対策に取り組むとともに、リサイクルの推進や食品ロス、プラスチックごみの削減など、生活に密着した取組についても推進してまいります。

次に、まちづくりについてでございます。

市民の皆さまが誇りを持ち、そして誰もが暮らしやすいまちをつくるためには、魅力ある都市拠点の形成と市民生活を支える交通網の整備が必要となります。

市民総ぐるみの取組により返還が実現した相模総合補給廠の一部返還地につきましては、市民の大切な財産であることから、市民が憩い集う、賑わいと活力あふれる空間とすることが重要であると考えております。そのため、今後の利活用につきましては、改めて市民の皆さまに広くご参画いただきながら、知恵を出し合い、方針を決めてまいりたいと考えております。

また、リニア中央新幹線の駅が設置される橋本駅周辺につきましては、まちづくりの長期的なビジョンを打ち出すとともに、県内唯一の駅が設置される機会を生かすため、特色あるまちづくりを進めてまいりたいと考えております。

交通利便性の向上につきましては、小田急多摩線の延伸に向けた取組を引き続き進めるとともに、ＪＲ相模線の複線化、バス交通の充実に取り組んでまいります。また、慢性的な渋滞が発生している国道 16 号の渋滞解消策について、国に積極的に働きかけを行ってまいります。

さらに、古民家や空き家を活用し、市民がアートに触れる機会を創出するなど、芸術が溶け込んだまちづくりや、障がい者の芸術文化活動の普及について検討を進めるとともに、市を挙げて地元スポーツチーム等を応援する仕組みを作るなど、市民の皆さまが地元を誇りに思えるまちづくりを進めてまいります。

次に、多様性が尊重される社会の実現についてでございます。

誰もがありのままの自分で生きることができる、そしてありのままの自分が受け入れられる社会を実現する、このことが市民の皆さま一人ひとりの幸せにつながるものと考えております。

いじめや虐待、ヘイトスピーチなどの人権侵害が決して行われることのないよう、国籍、年齢、性、障がいの有無などにかかわらず、誰もがお互いを認め合い、自分らしく生きることができる共生社会の実現に向けた取組を進めてまいります。

また、本市においても積極的に障がい者雇用を進めるとともに、企業や事業所と障がい者のマッチングを進める事業を展開してまいります。

さらに、外国人市民が安心して暮らせるよう、行政情報や防災情報の多言語化をはじめ、日本語の支援を必要とする外国につながる児童生徒の教育環境の整備、多文化交流の機会の充実などにも取り組んでまいります。

ここまで、政策の一端を述べさせていただきましたが、冒頭にも申し上げたとおり、私は、「市民に開かれた市政」ということが基本である

と考えており、この考えは決して変わることはありません。

市民ニーズや地域課題の変化等に伴い、新たな政策の立案はもとより、これまでの政策を変更しなくてはならないようなこともあるかと思いますが、そのような際にも、市民の皆さまとの「対話」を大切にしながら、真摯に、誠心誠意、取り組んでまいります。

そして、私も地方議員としての活動を経験した立場から、議員の皆さまが日々地域を歩き、直接市民の皆さまの声に触れておられることを承知しております。議員の皆さまと活発に議論を交わさせていただき、市民のための市政を進めてまいる所存であります。

なお、本日申し上げた政策や取組につきましては、実現に向けての課題の抽出、調整を鋭意進め、速やかな対応が必要なものにつきましては、9月定例会議において、補正予算として提案させていただきたいと考えております。

結びになりますが、私は、市民の皆さま一人ひとりの幸せのため、そして市民の皆さまが誇れる相模原市をつくるため、全身全霊を傾け、この職責を全うしてまいります。市政の推進に当たりましては、少子高齢化の一層の進行や、それに伴う厳しい財政運営など、幾多の困難に直面することもあるかと思いますが、市民の皆さま、団体、企業、市議会をはじめとする皆さまと手を携えながら、英知を結集し、困難に正面から取り組んでまいりたいと考えております。最後に、議会と市長は二元代表制を旨とする地方自治における車の両輪と言われておりますことから、議員の皆さま方のご指導、ご協力を賜りますよう切にお願いを申し上げます、所信の表明とさせていただきます。

ご清聴まことにありがとうございました。